

研究業績一覧

(2016年10月～2017年9月までに公表されたもの、教員の任意申告による)

【薬学部】

教授 大根田 絹子

著書・論文等の名称	単著共著の別	共著の際、自身の氏名も含め編者・著者名	発行所・発表誌又は発表学会等の名称	発行又は発表の年月(西暦)	該当頁・発表場所等
論文 「Uremic Toxins Affect the Imbalance of Redox State and Overexpression of Prolyl Hydroxylase 2 in Human Adipose Tissue-Derived Mesenchymal Stem Cells Involved in Wound Healing.」	共著	Khanh VC, Ohneda K, Kato T, Yamashita T, Sato F, Tachi K, Ohneda O.	Stem Cells Dev. 26 (13)	2017年 7月	948-963頁
学会発表 「マウス脂肪組織由来脂肪前駆細胞の分化過程における転写因子 GATA2の機能解析」		大森慎也, 和田圭祐, 鈴木美穂, 風間由紀子, 石嶋康史, 大根田絹子	日本薬学会 第137年会	2017年 3月	仙台国際センター
「マウス皮下組織由来脂肪前駆細胞の分化過程における転写因子 GATA2の機能解析」		和田圭祐, 大森慎也, 丸山恭平, 石嶋康史, 大根田絹子	平成29年度日本生化学会関東支部例会	2017年 6月	東京医科歯科大学
「マウス骨髄由来マスト細胞における GATA 因子による <i>Cebpa</i> 転写抑制機序の解析」		島武志, 大森慎也, 石嶋康史, 大根田絹子	平成29年度日本生化学会関東支部例会	2017年 6月	東京医科歯科大学

講師 岡本 健吾

著書・論文等の名称	単著共著の別	共著の際、自身の氏名も含め編者・著者名	発行所・発表誌又は発表学会等の名称	発行又は発表の年月(西暦)	該当頁・発表場所等
論文 「SF-KDM2A binds to ribosomal RNA gene promoter, reduces H4K20me3 level, and elevates ribosomal RNA transcription in breast cancer cells」	共著	Okamoto K, Tanaka Y, Tsuneoka M	International Journal of Oncology	2017年 3月	1372-1382

教授 荻原 琢男

著書・論文等の名称	単著共著の別	共著の際、自身の氏名も含め編者・著者名	発行所・発表誌又は発表学会等の名称	発行又は発表の年月(西暦)	該当頁・発表場所等
著書 『ジェネリック医薬品を取り巻く最近の話題、四捨五入製剤とオーセライズド・ジェネリック』	共著	高野由博, 井戸田陽子, 荻原琢男	茨城保険医新聞	2017年 9月	2-3頁

教授 荻原 琢男

著書・論文等の名称	単著共著の別	共著の際、自身の氏名も含め編者・著者名	発行所・発表誌又は発表学会等の名称	発行又は発表の年月(西暦)	該当頁・発表場所等
論文					
「なにもをもって「薬害」とするか? 「薬害」となるか?—医療関連団体へのアンケートに基づく薬害の発生要因とその定義」	単著		医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス47(12)	2016年12月	842-847頁
「Investigation of biopharmaceutical and physicochemical drug properties suitable for orally disintegrating tablets」	共著	A. Ono, T. Tomono, T. Ogihara , K. Terada, K. Sugano	ADMET & DMPK 4(4)	2016年12月	335-360頁
「Preliminary Evaluation of Three-Dimensional Primary Human Hepatocyte Culture System for Assay of Drug-Metabolizing Enzyme-Inducing Potential」	共著	H. Arakawa, H. Kamioka, T. Jomura, S. Koyama, Y. Idota, K. Yano, H. Kojima, T. Ogihara	Biol. Pharm. Bull.,40	2017年4月	967-974頁
「Utility of human hepatocyte spheroids without feeder cells for evaluation of hepatotoxicity」	共著	T. Ogihara , H. Arakawa, T. Jomura, Y. Idota, S. Koyama, K. Yano, H. Kojima	J. Toxicol. Sci.,42(4)	2017年5月	499-507頁
「Snail-Induced Epithelial-to-Mesenchymal Transition Enhances P-gp-Mediated Multidrug Resistance in HCC827 Cells」	共著	T. Tomono, K. Yano, T. Ogihara	Pharm. Sci.,106(9)	2017年3月	2642-2649頁
「Gastrointestinal Hormone Cholecystokinin Increases P-Glycoprotein Membrane Localization and Transport Activity in Caco-2 Cells」	共著	K. Yano, S. Shimizu, T. Tomono, T. Ogihara	J. Pharm. Sci.,106(9)	2017年4月	2650-2656頁
学会発表					
「消化管ホルモンであるコレシストキニンによる P-gp 機能調節」	共同発表	矢野健太郎, 清水里織, 荻原琢男	日本薬物動態学会第31回年会	2016年10月	キッセイ文化ホール
「BCRP を介した脳興奮物質である Spermine の排出」	共同発表	横塚弥衣, 松本映子, 矢野健太郎, 荻原琢男	日本薬物動態学会第31回年会	2016年10月	キッセイ文化ホール
「Snail 過剰発現による p-gp 機能亢進における Caveolin-1 リン酸化の関与」	共同発表	伴野拓巳, 矢野健太郎, 荻原琢男	日本薬物動態学会第31回年会	2016年10月	キッセイ文化ホール
「高脂肪食負荷ラットにおけるアルギン酸カルシウムの脂肪低下作用の検討」	共同発表	齊藤早知, 井戸田陽子, 加藤多佳子, 横山朱里, 矢野健太郎, 柿沼千早, 宮島千尋, 笠原文善, 荻原琢男	日本農芸化学会2017年度大会	2017年3月	京都女子大学
「ラットにおけるアルギン酸カルシウムによる血中トリグリセリドおよび体重脂肪重量増加抑制効果の検討」	共同発表	藤井健太, 井戸田陽子, 加藤多佳子, 横山朱里, 矢野健太郎, 柿沼千早, 宮島千尋, 笠原文善, 荻原琢男	日本薬学会第137年会	2017年3月	仙台国際センター

「HDAC 阻 害 薬 Entinostat は EMT に伴う P-gp の機能亢進を抑制する」	共同発表	町田幸也, 伴野拓巳, 矢野健太郎, 荻原琢男	日本薬学会 第32年会	2017年 5 月	大宮ソニックシティ
「フィードレスヒト肝細胞スフェロイドによる肝毒性の評価」	共同発表	小山智志, 荒川大, 城村友子, 井戸田陽子, 矢野健太郎, 小島肇, 荻原琢男	第24回 HAB 研究機構学術年会	2017年 6 月	昭和大学上條講堂
「上皮間葉転換による P- 糖タンパク質の機能亢進は肺がん細胞の薬剤耐性を増強する」	共同発表	上岡宏規, 伴野拓巳, 矢野健太郎, 荻原琢男	第12回トランスポーター研究会年会	2017年 7 月	東北大学片平キャンパス
「消化管ホルモンであるコレシストキニンによる P- 糖タンパク質の細胞膜上発現および輸送機能の亢進」	共同発表	矢野健太郎, 渡邊弥生, 伴野拓巳, 荻原琢男	第12回トランスポーター研究会年会	2017年 7 月	東北大学片平キャンパス
「高リン血症治療薬ピキサロマー及びセベラマーが降圧薬の消化管吸収に与える影響についての検討」	共同発表	秋山滋男, 矢野健太郎, 伴野拓巳, 金川雅彦, 荻原琢男	日本病院薬剤師会関東ブロック第47回学術大会	2017年 8 月	ベイシア文化ホール
「簡易懸濁時の酸化マグネシウム併用による ACE 阻害薬の主薬量変化」	共同発表	西村貴正, 高野由博, 小山智志, 矢野健太郎, 荻原琢男	第61回日本薬学会関東支部大会	2017年 9 月	慶応義塾大学薬学部
その他 特許 「血中プリン体代謝物低下剤, 飲食品, 飼料および医薬品」	共同	笠原文善, 宮島千尋, 荻原琢男, 井戸田陽子	出願特許	2017年 3 月	特願2017-048458

准教授 福地 守

著書・論文等の名称	単著共著の別	共著の際、自身の氏名も含め編者・著者名	発行所・発表誌又は発表学会等の名称	発行又は発表の年月(西暦)	該当頁・発表場所等
論文 「Convergence of neurotransmissions at synapse on IEG regulation in nucleus」	共著	M Fukuchi, M Tsuda	Frontiers in Bioscience (Landmark Edition) 22	2017年 3 月	1052-1072頁
「Visualizing changes in brain-derived neurotrophic factor (BDNF) expression using bioluminescence imaging in living mice」	共著	M Fukuchi, H Izumi, H Mori, M Kiyama, S Otsuka, S Maki, Y Maehata, A Tabuchi, M Tsuda	Scientific Reports 7	2017年 7 月	4949頁
「Distinct regulation of activity-dependent transcription of immediate early genes in cultured rat cortical neurons」	共著	M Fukuchi, T Sanabe, T Watanabe, T Kubota, A Tabuchi, M Tsuda	Biochemical and Biophysical Research Communications 490(3)	2017年 8 月	682-687頁
「Studies of Neuronal Gene Regulation Controlling the Molecular Mechanisms Underlying Neural Plasticity」	単著		Yakugaku Zasshi 137(9)	2017年 9 月	1103-1115頁

准教授 福地 守

著書・論文等の名称	単著共著の別	共著の際、自身の氏名も含め編者・著者名	発行所・発表誌又は発表学会等の名称	発行又は発表の年月(西暦)	該当頁・発表場所等
学会発表 [BDNF-Luciferase トランスジェニックマウス由来大脳皮質ニューロン初代培養系を利用した BDNF 遺伝子転写活性化剤のスクリーニング]	共同発表	福地守, 森寿, 柴原直利, 田淵明子, 津田正明	第40回日本神経科学大会	2017年7月	幕張メッセ(千葉)
[Visualizing changes in brain-derived neurotrophic factor (BDNF) expression using bioluminescence imaging in living mice]	共同発表	M Fukuchi, H Izumi, H Mori, M Kiyama, S Otsuka, S Maki, Y Maehata, A Tabuchi, M Tsuda	第60回日本神経化学会大会	2017年9月	仙台国際センター(宮城)

准教授 峯野 知子

著書・論文等の名称	単著共著の別	共著の際、自身の氏名も含め編者・著者名	発行所・発表誌又は発表学会等の名称	発行又は発表の年月(西暦)	該当頁・発表場所等
論文 [Chloramine-T-mediated oxidation of benzylic alcohols using indium (III) triflate]	共著	Nakahara K, Kitazawa C, Mineno T	Chemical & Pharmaceutical Bulletin 65(8)	2017年8月	801-804頁
[Identification of novel selective P2Y6 receptor antagonists by high-throughput screening assay]	共著	Ito M, Egashira S, Yoshida K, Mineno T, Kumagai K, Kojima H, Okabe T, Nagano T, Ui M, Matsuoka I	Life Sciences 180	2017年5月	137-142頁
[Acylated glycosidic acid methyl esters generated from the convolvulin fraction of rhizoma Jalapae braziliensis by treatment with indium (III) chloride in methanol]	共著	Ono M, Oda S, Yasuda S, Mineno T, Okawa M, Kinjo J, Miyashita H, Yoshimitsu H, Nohara T, Miyahara K	Chemical & Pharmaceutical Bulletin 65(1)	2017年1月	107-111頁
学会発表 [芳香族ジアミンを出発原料としたベンゾイミダゾール類の合成]	共著	生田梨紗, 今井千晶, 峯野知子	日本薬学会第137年会	2017年3月	仙台国際センター
[置換アリアルイミダゾール類緑体の合成研究]	共著	今井千晶, 生田梨紗, 峯野知子	日本薬学会第137年会	2017年3月	仙台国際センター
[Influenza Drug Discovery and Synthesis as the Neuraminidase Inhibitor]	共著	Mineno T, Miller Marvin J.	Annual Congress of IDDST-Japan 国際学会	2017年7月	Hyatt Regency Osaka, Japan
[ブラジルヤラップ根のコンボルプリン画分の Indium (III) Chloride 処理生成物に関する研究]	共著	小野政輝, 小田早都子, 安田伸, 峯野知子, 大川雅史, 金城順英, 宮下裕幸, 吉満齊, 野原稔弘, 宮原一元	日本生薬学会第64回年会	2017年9月	東邦大学

【保健医療学部】

教授 大澤 幸枝

著書・論文等の名称	単著共著の別	共著の際、自身の氏名も含め編者・著者名	発行所・発表誌又は発表学会等の名称	発行又は発表の年月(西暦)	該当頁・発表場所等
論文 「入院患者に対する院内デイケア体制継続に重要な要素のカテゴリ化による内容分析」	共著	大澤幸枝, 田中聡一	医療福祉研究 第10号 日本医療福祉学会	2016年6月	17-28頁

※諸事情のため、今号に特別に掲載

講師 千木良 佑介

著書・論文等の名称	単著共著の別	共著の際、自身の氏名も含め編者・著者名	発行所・発表誌又は発表学会等の名称	発行又は発表の年月(西暦)	該当頁・発表場所等
論文 「Effects of Exercise Therapy during Dialysis for Elderly Patients Undergoing Maintenance Dialysis」 (維持透析中の高齢者に対する透析時運動療法の効果) (査読有)	共著	千木良佑介, 小田貴弘, 泉正隆, 吉村司	Journal of Physical Therapy Science Vol.29 No.1	2017年1月	20-23頁
「虚弱高齢者に対する電気刺激を併用した筋力トレーニングが呼吸機能, 運動機能, 血管内皮機能に及ぼす影響」 (査読有)	共著	千木良佑介, 高井智子, 馬場美早紀, 竹内伸行, 土橋邦生	第32回健康科学研究助成 2017 明治安田厚生事業団	2017年4月	86-89頁
学会発表 「Effects of an Expiratory Muscle Strength Training Method on Young Individuals and Its Clinical Use」 (若年者における呼気筋力トレーニング法の開発とその臨床応用)	共同発表	Y Chigira, K Hamano, M Baba, I Miyazaki	10th International Conference on Strength Training	2016年11月	Ryukoku University (Kyoto Japan)

准教授 樋口 大輔

著書・論文等の名称	単著共著の別	共著の際、自身の氏名も含め編者・著者名	発行所・発表誌又は発表学会等の名称	発行又は発表の年月(西暦)	該当頁・発表場所等
著書 『エビデンスに基づく理学療法クイックリファレンス』	共著	樋口大輔・他, 内山靖編集	医歯薬出版	2017年9月	57-63頁
論文 「Factors related to coping strategies during Japanese physical therapy students' clinical practice」	共著	Higuchi D, Echigo A	Journal of Physical Therapy Science 29(8)	2017年8月	1421-1425頁
学会発表 「理学療法学生における臨床実習関連ストレスの分類とストレス度との関連性」 「術前頸髄症者における疼痛の質的評価の臨床的有用性」	共同発表 単独発表	樋口大輔, 越後あゆみ	第35回関東甲信越ブロック理学療法士学会 第46回日本慢性疼痛学会	2016年10月 2017年2月	パシフィコ横浜 稲盛記念会館

准教授 樋口 大輔

著書・論文等の名称	単著共著の別	共著の際、自身の氏名も含め編者・著者名	発行所・発表誌又は発表学会等の名称	発行又は発表の年月(西暦)	該当頁・発表場所等
「3年次臨床実習における理学療法学生のソーシャルスキルとストレス対処方略との関連性」	共同発表	樋口大輔, 越後あゆみ	第52回日本理学療法学会	2017年5月	幕張メッセ
「理学療法学生の日常生活ソーシャルスキルおよびソーシャルサポートは男女で異なるか」	共同発表	樋口大輔, 越後あゆみ	第36回関東甲信越ブロック理学療法士学会	2017年9月	トクホ文化ホール

【人間発達学部】

教授 片山 豪

著書・論文等の名称	単著共著の別	共著の際、自身の氏名も含め編者・著者名	発行所・発表誌又は発表学会等の名称	発行又は発表の年月(西暦)	該当頁・発表場所等
著書 『文部科学省検定済教科書高等学校理科用「生物 改訂版」』	共著	本川達夫, 片山豪, 他15名	啓林館	2017年3月	全398頁のうち, 83, 94, 95, 112-115頁
論文 「簡易抽出DNAの蛍光染色色素による確認実験」	単著		遺伝, 71(1)	2017年1月	2-9
「理科用語の標準化に関する研究Ⅱ—中学校理科生命分野の用語データベースの作成と用語の定義—」	単著		高崎健康福祉大学紀要, 16	2017年3月	75-90
「DNA抽出実験の実施に関する研究—高等学校の現行課程と旧課程と中学校の比較—」	単著		群馬生物, 66	2017年5月	3-7
学会発表 「中学校理科用語(第二分野生命)のデータベース作成」	共著	根岸勇輝, 小見佳史, 竹節未奈美, 鈴木萌香, 片山豪	日本理科教育学会第55回関東支部大会	2016年12月	埼玉大学
「DNA抽出実験の実施に関する調査とDNA確認実験の提案—中学校及び高等学校の旧課程と現行課程の比較—」	共著	片山豪, 谷津潤	日本生物教育学会第101回全国大会	2017年1月	東京学芸大学
「カイコ限性黄鹼系統を用いた「遺伝子と染色体」の単元における教材の開発 Part2—蛹のDNA抽出の時期に着目して」	共著	野崎真史, 片山豪	日本生物教育学会第101回全国大会	2017年1月	東京学芸大学
「愛媛大学におけるサイエンス・リーダーズ・キャンプの取り組み—タンパク質研究の先端技術を活用した実践型次世代生命科学教育(最終年度)」	共著	林秀則, 片山豪, 坪井敬文, 遠藤弥重太	日本生物教育学会第101回全国大会	2017年1月	東京学芸大学
「試験管内で転写・翻訳を簡易的に再現する実験—コムギ胚芽無細胞タンパク質合成系を用いてタンパク質を発現してみよう—」	共著	片山豪, 林秀則	日本生物教育学会第101回全国大会	2017年1月	東京学芸大学

「生物教育用語の調査分析について—生物基礎に登場する用語を中心に—」	共著	渥美茂明, 笠原恵, 市石博, 伊藤政夫, 片山豪, 木村進, 繁戸克彦, 庄島圭介, 白石直樹, 武村政春, 西野秀昭, 福井智紀, 真山茂樹, 向平和, 渡辺守	日本生物教育学会第101回全国大会	2017年1月	東京学芸大学
「群馬県高崎市吉井町有機栽培水田におけるイネ栽培期間中の珪藻個体密度の変化」	共著	野崎真史, 富加津柚奈, 片山豪	日本珪藻学会第38回大会	2017年5月	大森海苔のふるさと館
「小学校教員養成課程における客観的実験技能試験(OSPE)の試み—溶液の作成方法と顕微鏡の使用法の習得について」	単著	片山豪	日本理科教育学会第67回全国大会	2017年8月	福岡教育大学
「限性黄繭系統を用いた遺伝子の連鎖を理解する実験教材の開発 Development of teaching material for understanding linkage of genes by using SY strain」	共著	野崎真史, 片山豪	日本動物学会第88回全国大会	2017年9月	富山県民会館

教授 吉田 恵子

著書・論文等の名称	単著共著の別	共著の際、自身の氏名も含め編者・著者名	発行所・発表誌又は発表学会等の名称	発行又は発表の年月(西暦)	該当頁・発表場所等
論文 「音楽教育における表現の諸問題—替え歌・パロディをめぐって」	単著		高崎健康福祉大学紀要第16号	2017年3月	91-105頁
学会発表 「高校生の性同一性障害・性的思考・性自認の支援体制」 「高校生の虐待・家庭内暴力事案の相談支援体制」	単独発表 単独発表		日本学校心理学会第18回名古屋大会 日本学校心理士会2016年度大会	2016年10月 2016年12月	名古屋大学 東京成徳大学

講師 嶋田 和成

著書・論文等の名称	単著共著の別	共著の際、自身の氏名も含め編者・著者名	発行所・発表誌又は発表学会等の名称	発行又は発表の年月(西暦)	該当頁・発表場所等
著書 『教育・心理系研究のためのデータ分析入門—理論と実践から学ぶSPSS活用法』(第2版)	共著	平井明代, 飯村英樹, 伊藤尚子, 印南洋, 小泉利恵, 小林真悠子, 今野勝幸, 嶋田和成, 高木修一, 高波幸代	東京図書	2017年2月	全282頁のうち, 第2章「基本統計」20-38頁, 第7章「相関分析」145-164頁
論文 「Textbooks or E-learning? Learners' Preferences and Motivations in a Japanese EFL Classroom」	単著		The Language Teacher, 41(2)	2017年3月	3-8頁
論文 「A Parallel Corpus-based Study of L1 Effects on Discourse Marker Use」	単著		Language Education & Technology, 54	2017年6月	193-221頁

講師 嶋田 和成

著書・論文等の名称	単著共著の別	共著の際、自身の氏名も含め編者・著者名	発行所・発表誌又は発表学会等の名称	発行又は発表の年月(西暦)	該当頁・発表場所等
学会発表 [A Cross-linguistic Analysis of Discourse Marker Use in Speech]	単独発表		International Association of Applied Linguistics (AILA) World Congress 2017	2017年7月	Windsor Barra Hotel and Convention Center, Rio de Janeiro, Brazil